

留学生の体験談

- 抜粋版 -



DREAM ON WITH IGE

www.weexchange.com, www.sportslink.us



CONTENTS

1. 大学院留学

- 李彦
- 宇佐見牧子

UCLAから Santa Clara ロースクールへ。ロサンジェルスで弁護士に！
日本の大企業勤務から一転、Ball State Univ. 大学院で、奨学金を獲得し、
スポーツマネジメント履修。卒業後IGEに勤務

2. 大学留学

- 片桐亜希子
- 天野絵里

在学4年間、奨学金を獲得。卒業後、ハリウッドで演劇で活躍中
在学中にチアリーダー全米優勝。卒業後、アメリカの一流企業に勤務

3. NATA 留学（大学・大学院）

- 山田健太
- 江口省吾
- 志田原啓江

高校留学を経て、Chapman University NATA進学。
元 Boston Red Sox 松坂投手の専属トレーナー兼通訳に
語学、コミカレ留学。四大留学中に大学推薦でSouth Dakota State Univ.
大学院へ
広島大学卒業後、語学留学を経て、州立大学でNATAを専攻。卒業後広島大
学・大学院でNATAを広めることに従事

4. 高校留学

- 城戸謙秀
- 酒井駿一

高校留学から Boston University進学。卒業後、日本の一流企業に就職
日本の怠惰な生活とは一変。積極人間に変身。就職は、留学経験を生かして
日本の大手自動車メーカーに

次ページに続く



ここに載っている体験談は、ほんの一部です。
全ての体験談は、www.weexchange.com
www.sportslink.us で参照してください。



CONTENTS

5. コミカレ留学

- ・ 白田麻弥
- ・ 近藤優

- ・ 上原玲
- ・ 小原聡子

人と人との繋がりは運命！卒業後、アメリカで日系企業に就職
3年連続でダンス最優秀賞獲得。同時に奨学金も獲得。大手新聞 LA Times
に掲載され、州立大学進学
留学したらなりたい自分が見つかった。TVドラマの制作携わる
大切な事は諦めないこと。映画の特殊メイクの仕事を目指す！

6. ピラティス・インストラクター資格取得留学

- ・ 鶴見あずみ

- ・ 三浦香織

看護師をやりながらバレ歴20年。将来は、ピラティスをリハビリと練習
に取り入れたスタジオを経営
パーソナルトレーナー歴6年。しかし、マンネリした自分を再生させるため
ピラティスに挑戦

7. 語学留学、短期留学

- ・ 大矢卓明

- ・ 竹内千華

- ・ 野津志保

- ・ 川端梓沙

京都大学4回生を一年休学し、語学留学と体験留学。語学のマスターはもし
ろん、各国からの留学生と交流し、視野が広がった。
大学1年の夏休みを利用して、1か月の語学留学。最初は、不安ばかりだっ
たが、日本に帰りたくないほど、楽しく、充実していた
中学時代から不登校。19才の時、気分を変えようと、1か月の語学留学。す
ごく楽しくて充実していたので、翌年も語学留学。大学留学を決意。
生まれつきの重度の障害。しかし、障害者の通訳をやろうと3か月の語学留
学。すごく充実していたので、翌年、6か月の語学留学を果たす。

8. アメリカ研修、インターンシップ

- ・ 門多元

- ・ 池田裕子
- ・ 藁谷美穂

早稲田大学。大学院在学中。高校野球のコーチ、監督を目指し、
名門Chapman University野球部でコーチのインターン
夢のハリウッドの映画配給会社でインターン
日本では病院勤務の看護師。アメリカの介護施設は、日本と違って、
入居者は自立して、とても明るかった。



ここに載っている体験談は、ほんの一部です。
全ての体験談は、www.weexchange.com
www.sportslink.us で参照してください。



李彦（イエン・リー）

日本の高校を卒業後、コミカレを経てUCLAに留学。卒業後、弁護士を目指してSanta Clara法科大学院（Law School）に進学。
2013年、在学中に弁護士試験に合格して、ロスの弁護士事務所勤務。
“IGEは、私にとって救世主のような存在。”



UCLAのクラスメートと

IGEは、私がどうしたらよいか途方に暮れていた時、私を大学留学へと導いてくれた救世主のような存在です。

私が留学を考え始めたのは高校生になってからでした。きっかけは英語を学びたかったからです。

実は、私は中国生まれの中国人で、日本に来たのは8歳の時です。日本に船で来る時、知らないおじさんが日本語で話しかけてきました。日本語が分からなかった私ですが、そのおじさんは、とても優しくしてくれました。

私はその事に感激し、日本語をマスターしようと思ったのです。英語を勉強するために、アメリカに留学しようと思ったのは、その時の体験があったからです。

日本の高校に進学し、ワクワクしながら英語の授業に臨んだのですが、授業は受験のためのものだったため、次第に嫌気がさしてきました。そこで、留学について、自分で調べ始めましたが、調査が進めば進むほど、迷路に入ってしまう、どうしてよいか分からなくなってしまいました。

ちょうどその頃、IGE社長が日本に来られる事を知り、カウンセリングを申し込みました。そこで、大変魅力的な話を沢山聞き、又、留学の方法についても分かり易く説明して頂き、私のモヤモヤは一気に吹き飛びました。IGE社長のアドバイスの基、まず、コミカレに留学し、そこで一生懸命勉強し、UCLAに合格することができました。

UCLAに進学後、自分の進路を弁護士と決め、UCLA卒業後、法律事務所で1年間のインターンを行いました。そして、Santa Claraの法科大学院に進学しました。将来は、アメリカ、日本、中国で国際弁護士をやりたいと思っています。

日本の皆さん、アメリカの大学は本当に素晴らしいです！日本の大学に進学するのも選択肢の一つですが、選択肢にアメリカ留学も加えてください。世界が広がる事を保証します

体験談の続きは weexchange.com へ

大学院

ロースクール卒業式後の夕食
日本の両親とIGE平田社長と





宇佐見牧子

日本の学芸大学を卒業後、大手自動車メーカーに勤務。しかし、スポーツビジネスへの夢が捨てきれず、退社して Ball State University 大学院に留学。奨学金を獲得し、トップの成績で卒業。日米を行き来しながら、2012年までIGEの経営に参画。



モットーは、競争率の高い奨学金を獲得した経験より、“自分を信じて全力で頑張れば、必ず認めてもらえる！”

留学を思い立ったのは大学1年生の頃。海外出張の多かった父の影響で外国の文化に常に興味を持っていました。

大学1年で始めてアメリカへ旅行し、2週間のホームステイを体験。これがきっかけで大学3年生からの語学留学を決意しました。

不安と期待の中、カリフォルニア州、サンディエゴでの語学留学が開始。この1年は、私の人生にとってとても貴重な期間でした。初めて親元から離れて、一人で暮らす事の大変さ、どれだけたくさんの人にお世話になってきたかを実感しました。

父親のアドバイスは「この1年間は語学だけに拘らず、日本では経験できないこと、今しか出来ない事も積極的に行う」と言うことでした。さまざまな国の留学生と友達になったり、海に行ったり、あらゆる事に挑一戦しました。

日本の大学を卒業後、三菱自動車に勤務。温かい人々に囲まれながら、国際ビジネスの基礎を習得。自立心も育ちました。一時は大学院留学を諦めようかとも思いました。でも、今行かなかったら一生後悔すると思って入社3年後、ついに退社。その年の8月に大学院へ入学しました。

入学後は、奨学金を取得する為に、必死に勉強しました。アメリカの大学では優秀な学生に奨学金を出すからです。

2年間のプログラムでしたが、頑張っって一年半で卒業。卒業後、IGEで大好きな仕事に出会って、ようやく自己実現を確立するスタートラインにたてたと言う思いです。

人にはそれぞれ夢があり、その夢を叶える為に、多くの人々が毎年渡米します。そんな夢のサポートを自らの経験と知識を生かしてしていけたらいいなと思っています。

これから夢に向かって頑張る皆さんのサポートを一生懸命する事が、今までお世話になった方々への恩返しになるとも思っています。IGEで素敵な皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

体験談の続きは weexchange.com へ



片桐亜希子

“やりたいことが見つかったよ！”父の仕事で、日本の中学生の時に渡米。Chapman Universityで5年間奨学金を獲得して演劇学部を卒業。卒業後は、ハリウッドでプロの演劇女優として活躍する一方で、IGE留学生のサポートも行う。日英完璧なバイリンガル。



現在、私は役者・パフォーマーとして、日々自分を磨いている生活を送っていますが、それもこれも、すべてが大学がきっかけです。

初めて親元を離れた生活に戸惑いや失敗は数多くありましたが、自分自身で道を選ばないといけないと改めて考えさせられたのが、大学に入って2年たった時でした。

大好きなスポーツと繋がっていたくて、アスレチックトレーナーを目指してChapman Universityに留学しましたが、自分は本当にこれがやりたいのか？と考え始めてしまったのです。悩みに悩み、もやもやした雲が私を取り込んで、授業に行くことも勉強することも楽しくなくなっていました。結果、成績も過去最低に落ちました。アスレチックトレーニングのクラスで初めてCというグレードを取ってしまったのです。悔しくて恥ずかしい思いでいっぱいになりました。

その頃、演劇やダンスを専攻としている友達と触れ合う中で、私は彼らを羨ましいと思うようになっていました。小さい頃から、ダンスや歌が大好きだった私は、パフォーマーとしての夢を頭の隅に植え付けていたのです。アスレチックトレーナーよりもパフォーマーや役者として成功するほうが遥かにリスクは大きい。でも、自分が心から楽しくなきゃ、情熱がなければ意味がない。そう考えた時には、自分の中では、すでに答えはわかっていました。

大学3年目にして、思い切って、アスレチックトレーナーから演劇に専攻を変えました。専攻を変えてからは、生活は大きく変わりました。授業内容も、根本的なものから心理的なものまで幅広く、本当に毎日学校に行くのが楽しみでなりません。舞台の上で呼吸を上手く使う方法、体を理解する勉強、シェイクスピア、カメラ前の演技、メイク、照明、発音・発声、ディレクター、バックステージ、いろんなことを学びました。

こんな風に、3年目にして思い切って専攻を変えることができたのも、アメリカの大学のシステムのお陰です。アメリカは、個人の意見や意思を強く尊重し、応援してくれます。そのお陰で、私も夢を追い続けることができたのです。

皆さんに伝えたいことは、夢は大きいほど、人生は楽しくなるということです。ハードルが高くなれば、それを乗り越える努力をすればいいだけのことです。

体験談の続きは weexchange.com へ

大学



天野絵里

高校卒業後、留学。コミカレを経て、カリフォルニア州立大学
ロングビーチ校に留学。在学中に大学チアリーダー選手権で全米優勝。
卒業後、希望だったアメリカのマーケティング会社に勤務。
世界中の企業のマーケティングや広報の分野で大活躍。
“将来は、自分の会社を起業したい！”



私が留学をしたきっかけは高校時代の交換留学でした。中学生のころからアメリカの高校に憧れ、アメリカ交換留学のプログラムを持っている日本の公立高校に入学しました。夢がかなって2年生の時に一年間、アメリカの公立高校に交換留学することができました。その時、もっと英語でコミュニケーションを取れるようになりたいという気持ちが強まり、アメリカ大学留学を決めました。

カリフォルニア州立大学では、経済学と国際ビジネスを専攻する予定でした。その為、コミカレ在学中にそれらに関連するクラスをいくつか取りましたが、留学生活が長くなるにつれて、異文化コミュニケーションに興味がわいてきました。

そこで、専攻をスピーチコミュニケーションに変更しました。カリフォルニア州立大学ロングビーチ校に決めた理由は、スピーチコミュニケーション学部がカリフォルニアで2位、全米で8位のランクがついており、教授陣も優れていたからです。

この専攻は、ビジネスフィールドにおけるコミュニケーション；個人間、組織内、異文化、などを深く学ぶ分野で、現在ボーダーレス化が進む国際社会で不可欠な知識、スキルを学ぶことができます。就職先は幅広く、主にマーケティング、PR、営業などに進む人が多く、他には金融会社や法律事務所などに進むひともまれではありません。

一方、私は中学生のころからチアリーディングに憧れており本場のアメリカでやれることが私の夢でした。入部前は、多少の気後れもありましたが、周りのサポートによって、チームになじめるようになり、最後は、全米大学選手権で、何と優勝することができました！

大学4年生の時、どうしてもアメリカのマーケティングや広報を行っている会社で働きたく、就活を行いました。その結果、理想的な会社に就職できました。仕事量は大変多いですが、世界中の色々な会社のマーケティング業務に携わることができて、とても幸せです。

将来は、今以上にマーケティングの知識や人脈を広げ、日本とアメリカ間を橋渡しできる、他にはないユニークなカタチのマーケティング、コンサルティング会社を起業したいと思っています。

体験談の続きは weexchange.com へ



広告撮影で。



山田健太

ハワイの高校に留学後、ロサンゼルス郊外の名門、Chapman Universityに入學。大学時代は、ロスのプロスポーツ球団でインターン。卒業後、アメリカのメディカル・クリニックでインターンをやった後、当時のボストン・レッドソックス松坂投手の専属トレーナー・兼通訳として働く。



高校2年時からカナダで留学を始め、日本の高校の部活でやっていたアメリカンフットボールを続けました。不運なことに、足首のねん挫や骨折など怪我が多く、いつも学校専属のアスレチックトレーナーにお世話になっていました。

その時、怪我の治療、リハビリ、テーピングなどを指導してもらったおかげで、怪我は比較的早く治り、チームに復帰し活躍することができました。

その時から、スポーツ医学に興味をもち、自分のような怪我の多い選手をサポートできる、アスレチックトレーナーになりたいと思いました。

その希望通り、高校を卒業して、カリフォルニア州のChapman Universityに進学し、アスレチックトレーナーを専攻しました。この大学はもちろんCAAHEPが公認する大学で、ATC (Athletic Trainer, Certified)になるのが目標でした。

英語は高校からの留学で上達していたので、他の留学生と比べれば有利だと思っていましたが、医学語中心に進む授業について行くのは大変でした。ですから、テープレコーダーを授業に持ち込み、再度、聞き直したり、復習を徹底したりしながら、授業に遅れないように努力しました。

ここロサンゼルスは、プロスポーツのメッカです。あらゆるスポーツの強豪チームが集まっていますが、大学とプロチームのインターンプログラムのお蔭で、プロチームでのインターンをやりました。プロチームには、専属ドクターとアスレチックトレーナー数人を擁しており、且つ、最新の治療法を最新のスポーツ施設の中で経験できるという幸運に恵まれました。トップアスリートに対し、こういう環境で、トレーナーが活躍している事は、さすがスポーツ大国アメリカだと感じました。

スポーツを通して英語を学びたい人は、アスレチックトレーニングを専攻することを進めます。高度なコミュニケーション能力が要求される環境の中で、4年間しっかりやれば、素晴らしい留学経験になるだけでなく、英語の上達も見違えるものがあります。これから、アスレチックトレーナーを目指す皆さんは、BOCの公認試験に受かることを目標にして、がんばってください。

体験談の続きは weexchange.com へ



江口省吾

語学学校、コミカレを経て、四大のNATAに進学。四大在学中に、大学から異例の推薦を受け、South Dakota State University大学院に進学。日本の四大では経済学を専攻。しかし、普通に就職する事に疑問を感じたことと、大好きなスポーツと人に関わる仕事がしたかったので、アメリカ留学して、トレーナーになることを決意。



渡米してみたら、英語は全く分からず愕然。その時、IGEスタッフや周囲の激励で奮起し、コミュニティーカレッジに入学できました。2年間のコミカレは順調に。

そして、四大へ編入。最初の年は、英語の基準がクリアできず、涙を飲む。アルバイトをしながら、翌年の入学を目指して、英語の勉強に真剣に取り組みました。その結果、South Dakota State UniversityのNATAプログラムに合格する事ができました。

ここSouth Dakota は中央部の北部にある田舎です。しかし、アメリカの田舎の良さがたくさんあって、ここでの留学生活は本当に充実していました。

カリフォルニアと違って、リクレーション施設もなく、冬は雪が積もり、通学前に雪かきしなと学校に行けないので、ほとんど勉強と実習に明け暮れました。でも、土地が広々としており、家の敷地と同じくらいの広さの庭で、キャンプファイアーをし、友達と酒を飲みながら語り合ったのは楽しい思い出です。又厳しい冬が終わると、いっせいに花が咲き、春が訪れ、自然の素晴らしさも感じました。それに田舎なので、生活費が断然安く、学費も安いので、バイトをしなくてもやって行けました。

これからアスレティックトレーナー留学をしようと考えている人へのアドバイスを幾つか書きたいと思います。アメリカで学ぶメリットの第一はレベルが高いことです。アスレティックトレーナーになりたいなら、アメリカです。ただ、アメリカに来る前に、できるだけ英語を勉強することをお勧めします。

又、日本の大学を卒業してから留学しようと考えている人には、卒業してからではなく、アメリカ四大編入をお勧めします。

私が考える「理想のアスレティック・トレーナー」は、一人一人のアスリートに合ったケアができる人。身体と共に、メンタルなケアも大事なので、うまくコミュニケーションを取りつつ、自分を信頼してもらえるように努めたいと思います。NATAのグローバル化が叫ばれており、他国でやってみたいという気持ちもあります。とにかく高いレベルを維持したいので、一ヶ所に安住することなく、様々なことにチャレンジしていくつもりです。



志田原啓江

“やりたいことに向かっていることは幸せなこと！”

広島大学卒業後、語学留学を経て、カリフォルニア州立大学サンホセ校に入学。

“NATAは学科と実地のクラスがあり、ものすごいチャレンジが必要。

でも頑張ったお蔭で予定通りに卒業。”

卒業後は、母校・広島大学大学院にて、NATAを広めていくことに情熱を燃やす。



私はもともと留学する前から、アメリカに留学してアスレティックトレーナーの資格を取得したいという強い気持ちがありました。

なので、日本の大学に在学中から、そのときにできることをやってきました。たとえばTOEFL。これは留学生にとって絶対に超えなければならぬ第一関門ですね。TOEFLは日本にいる間から少しずつ準備していると、留学してからのカレッジ、大学へのアプリケーションですごく楽になると思います。

語学学校に5ヵ月通った後、州立大学からうれしい合格通知が届きました。今はサンノゼ州立大学でNATA（アスレティックトレーナー）で勉強しています。私のいる学部では4セメスターかけてアスレティックトレーナーについて勉強します。

最初のセメスターはなれない土地で、いきなり英語で専門的な授業なので、ついていくことが必死でした。でも、やさしい友達にも出会い、スタディーグループもできたので何とかやっていけました。この間、6回異なるハイスクールや大学でインターンシップを行い、フィールドでの経験をつんでいきます。

これはとても楽しいです。前のセメスターは、サンノゼ州立大学のフットボールのチームに配属されました。練習は朝の5時半からということで授業とインターンとの両立は大変でしたがとても貴重な経験をすることができました。又、他の州の遠征についていく機会もあり、本当に楽しかったです。

最後に私から、これから留学しようと考えているみなさんへ伝えたいことは、強い気持ちがあれば何でもできるということです。やる時には、そのやるべきことをやり、遊ぶときは、思いっきり遊ぶ。そのけじめさえつけることができれば自分なりの素敵な生活を作り上げることができると思います。やるか、やらないかはすべて自分次第です。

アメリカはそういったことを直に体験できる、大きな国です。何か、強い意志と目標をもって、アメリカと日本の違いを感じながら自分の人生を作り上げていてください。簡単ではありますが、体験記を書く機会を与えてくださったIGE、ありがとうございました。



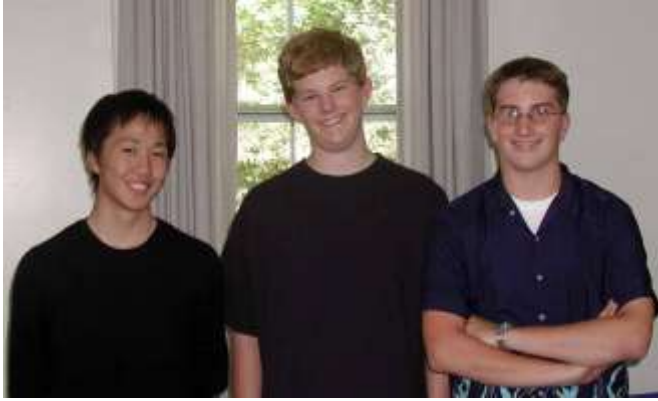
体験談の続きは weexchange.com へ

NATA



城戸謙秀

自分を変えるために、中学を卒業して高校留学。語学学校で半年勉強した後、Boston 郊外のBrewstar 高校に留学。2年後、ボストンの名門 Worcester Academy高校に編入。“IGEの激励で英語と高校留学が乗り切れた！”
高校卒業後、現役で私立の名門 Boston Universityに合格。
卒業後は、日本に帰国し、大手IT会社に就職



日本の中学を卒業して、アメリカの高校に留学しようと決意した理由は、アメリカで自分の夢を果たすためと、だらだらとした自分自身を変えたいためでした。中学時代は、毎日両親に叱られてばかりの生活、自ら勉強することは殆どなく、テストの前日でもテレビの前に座ってなまけているだけの毎日でした。父と母から"勉強しろ"といわれてばかりでした。

僕がアメリカに留学するといっても、問題は英語力でした。そこで、IGE平田社長のアドバイスで、中学を卒と同時に渡米し、英語を勉強するようにしました。平田社長にカスタムプログラムを作って頂き、英語漬けの日々が始まりました。

これは一生忘れる事ができない出来事ですが、語学学校の初日、学校のカウンセラーから、「君のような低いTOFLEスコアは、当校、始めて以来」と絶句されたことです。私は、ショックでしたが、逆に、それをバネにして、頑張ろうと決意しました。

Brewster Academyに入学することができました。入学の日には、両親と平田さんご夫婦にも参加していただきました。あの時の気持ちは今でも忘れません。1年たった今、日本では考えもつかないほど勉強に打ち込むようになれました。1年生の最終学期と、2年生の1学期と連続して、優等賞を取る事ができました。

又、次の学期には生徒会委員に推薦されました。ここまで努力してこられたのも、私の家族はもちろん、平田社長を始めとして、自分を支えてくださった方々のおかげです。

又、その期待に答えようとする自分があったからこそここまでがんばってこられました。

体験談の続きは
weexchange.com へ



高校



酒井俊一

“カナダ高校留学はボクを変えた。”日本の怠惰な高校生活から一変、積極人間に変身。ブリティッシュ・コロンビアの小さな高校で英語をみっちり勉強できたことが、その後に繋がる。大学は日本に帰国し、早稲田大学に進学。留学体験と英語力を生かして、日本の大手自動車メーカーに就職。



南米旅行：チリのパレパライソで知り合った家族と

中学3年生だった僕は普通に友達と同じように日本の高校に進学するつもりで、学校の後は友達と一緒に塾に通い普通に受験勉強をしていました。

しかし突然ある日、母がいきなり海外に行くって言う進路もあるよと、さざっと言ってきました。僕は皆と違う進路を選ぶのも面白いかなと思い、IGEで、留学に関するお話を聞かせていただきました。

日本の高校のメリット、デメリット海外の高校のメリット、デメリットを考えた結果、海外の高校に行こうと決めました。それからは、一気に準備に入りました。

中学卒業してから9月の高校入学まで時間があるのでIGEの本社があるカリフォルニア州にホームステイしながら語学学校に通うことになりました。この期間は波乱万丈の3ヶ月でした。しかしその3ヶ月もあっという間に過ぎ、いよいよ高校入学です。

僕はカナダのビクトリアにあるLakeside Preparatory Academy High Schoolという全校生徒50人しかいない小さな学校に入学しました。小さい学校にもその学校なりのメリットがあり、特に僕の学校の場合は全校生徒の半分を留学生が占めているので先生方も親身になって丁寧に教えてくれるし、一所懸命、自分の言っている事を理解しようと努めてくれます。英語の能力が普通のカナダの人たちと一緒に授業を受けるレベルまで達してない人にとっては最初の1年か2年ここで英語の能力を向上させるには、とてもいい学校だと思います。

僕の学校では留学生全員が寮に住んでいます。寮では毎日勉強時間が決められていて、その時間は学校の先生や特別講師の人達が寮に来て教えてくれるので宿題もスムーズに終わらせるし、どうしても授業についていけない場合は学校側が放課後に補習を課し家庭教師とマンツーマンで授業が受けられます。

授業の事が少し落ちつくとは今度は友達と遊ぶなど、時間にゆとりが出てきて一気に学校生活が楽しくなり始めました。放課後や休日は、友達とバスケしたり部屋でくつろぐなど皆、自由気ままに過ごしています。このように授業以外でも英語の向上が見込めるようになったし、僕は寮で友達と会話することで本当の生きた英語が学べたと思っています。

もし留学するかどうか悩んでいる人がいたらIGEの人に会いたいと言えば必ず話を聞ける機会を作ってくださいるので相談すれば留学がどういうものかもっと良く分かります。一度留学して海外で物事を素直に貪欲に吸収してみたいかどうかがでしょうか？

体験談の続きは
weexchange.com へ

高校



白田麻耶

語学留学からコミカレ留学。卒業後は、アメリカの日系会社に勤務。責任者として充実した日々を過ごす。

“人と人との繋がりは運命そのもの。改めてそう感じる事ができたのは10年ぶりにIGE平田ご夫妻に再会できたことです。実は、平田さんご夫妻との出会いがなければ、今の私はアメリカにはいませんでした。”



<写真左>

アメリカに到着したその日、IGE平田ご夫妻の娘さんの卒業式に、家族全員と娘さんのお友達と出席。

アメリカの底抜けに明るい卒業式にびっくり！
カルチャーショックを受けました。
(左端が私)

留学を決めた時から渡米までの日々、平田さんご夫妻との巡り合い、そして渡米後のアメリカでの生活を振り返り、私にとってIGEとの出会い、アメリカへの留学は、まさに運命だったのだと感じます。

留学当初の予定では、カレッジを卒業したら日本へ帰国する予定でした。Orange Coast Collegeを卒業と同時にOPTを申請し、日系企業に就職した途端に、アメリカで仕事をしながら生活することが、日本より数倍楽しいと思えるようになりました。

小学生の頃から英語塾に通っていた為、中学校入学後も、英語の授業はすんなりと頭に入り不自由はしませんでした。英語の成績もいつも好成绩をキープ出来ていた為、自然と英語が大好きになり、高校進学も英語科がある高校へと進学。入学した最初の年に、英語科のイベントとしてクラスのみんなと行ったイギリスへのホームステイの経験が、英語を話せるようになりたい!という思いを強くしました。

アメリカへの留学が私の進路だと考え、学校選びのResearchが始まりました。そしてその出来事は、渡米予定の半年前に起きました。9.11.2001アメリカ人にとって、また世界中の誰もが忘れる事の出来ない日となったあの日、私はその事実をTVを見て知りました。ようやく学校を決めた、数時間後の出来事でした。この時点で、アメリカ留学は諦めていました。

そんなある日、知人から、アメリカでIGEを経営されている平田さんご夫妻を紹介してもらいました。911が起きた事により、家族全員が一人で渡米する事に対して自信が持てなくなっていました。平田さんご夫妻より、アメリカでもオレンジ・カウンティという地域の安全面を教えてくださいました。

幸い、私が通う事となった語学学校や、住んでいた場所は平田さんご夫妻のお住まいとも近く、もし何かがあった時には、平田さんご夫妻に連絡をする事が出来るという事が、私にとっても、両親にとっても、大変心強く、留学を再度決意する事ができました。

体験談の続きは weexchange.com へ

コミカレ



近藤優

好きなダンスを思い切り！充実した毎日。
語学留学を経て、コミカレ Orange Coast Collegeに留学。
3年連続ダンス最優秀賞を受賞し、3年連続ダンス科の奨学金を獲得。
リサイタルでのダンスを、大手新聞 LA Times に絶賛され、
カリフォルニア州立大学ダンス科に進学。
さらに学び、踊りの表現を磨いてゆこうと決意。



アメリカに留学することを決めた理由は色々だけれど、すべては直感からきていたように思います。

6才から、母のダンス教室で踊り始め、高校卒業まで、ダンス漬けの日々を送っていた日本での生活。

大好きなたくさんの友達と、あたたかい家族と、恵まれた環境、すべてが揃っていました。

だけど、人としてそしてダンサーとして、多くの事を知りたい、学びたいという気持ちは常にあり、ただ漠然と"もっと視野を広げたい。もっと世界を見てみたい。"という思いをずっと抱いていました。

悩んだ未決めた留学でしたが、決めた後の不安と大好きな人たちを離れる寂しさはアメリカに到着するまで私の心を離れませんでした。でも、本気で考え不安と向き合ったからこそ、ゼロから始まるアメリカでの生活にも面と向かって挑めたのかもしれない。

勢いとやる気と感情だけで踊っていた私の日本でのダンスは、Orange Coast College(OCC)のダンス科入学後、技術的に一から鍛え直され、芸術としての踊りの表現へと理解を深めるという大きなステップを踏むことになります。それこそが、漠然と思い続けていたダンスに関して"もっと知りたい"事であり、OCCで過ごした三年間は一日一日が勉強でした。特に、カレッジに入ってから始めたモダンダンスにはその自由さと深さに魅かれてのめり込みました。それから振り付けにも興味を持ち始め、自分の表現を作品にするという作業に強い思いを抱き始めました。

毎年春に行われるコンサートでは、最優秀賞と奨学金を三年連続で頂くことができました。中でもDrothy Duddridge Dance Scholarshipは、日ごろのクラスでのがんばりやパフォーマンス、技術などすべてにおいて秀でている生徒に贈られるという賞でしたので、地道に積み上げてきた毎日の努力が形になって認めて頂いたという、言葉には表せない感動がありました。そして三年目には、過去二年頂いた二つの賞の他に、コンサートにした振り付けに対して贈られる賞も頂くことができました。

三年目のOCC最後のコンサートには、今までお世話になったたくさんの人達に来て頂くことができ、中でも日本から来てくれた両親やIGE代表の平田さんご夫妻に成長した姿を見てもらったことがすごくうれしかったです。

体験談の続きは weexchange.com へ



上原玲

“留学したから、なりたい自分が見つかった！
留学中に仲良くなった各国の友達。楽しかったり、悲しかったり、
ホームシックになったり、泣いた経験の中で、私がやりたいことは
TVドラマを作ることなんだ！とはっきり分かったのです。
留学の経験が、将来、良いTVドラマを作ることができるかと確信しています。”



私が初めて留学に興味を持ったのは15歳の頃。理由はいたって単純。ある日見た映画に感動し、映画といえばアメリカだろう！と思ったことがきっかけです。それが実際4年経ってみて、本当に留学しているのだから、自分でも驚きです。

現在Orange Coast Collegeという2年制のコミュニティーカレッジで最終学期を迎えています。この約2年間に私の中でもいろいろな変化がありました。

留学する目的というのは人それぞれです。英語が学びたいから？ やりたいことがあるから？ 海外に憧れがあるから？ 私の中で、「なぜ留学したのか？」ということはずっと考えてきた疑問でした。

初めは「映画を作りたい！」という思いでアメリカに来た私でしたが、「本当に映画製作をしたいのか？」「ただ単に映画を見るのが好きなだけじゃないのか？」というような疑問の波が打っては返しという状況が、ずっと続いていました。そんなときに観た一本の日本のテレビドラマが、私の状況を変えました。こんなに観る人を楽しく、幸せにしてくれるものを作るのはきっと楽しいんだろうと思いました。「私のやりたいことはこれだ！」と感ずることができたのです。

アメリカには、アメリカ人はもちろん、韓国人、台湾人、中国人、ベトナム人、メキシコ人、私の周りには日本では出会えないたくさんの方がいて、まさしく『人種のサラダボウル』です。学生は学業優先。これは言うまでもありませんが、私は今こうして毎日身を持って感じていることを無駄にはしたくないと思いました。その多くは勉強しているだけでは学べないことばかりです。

そして、アメリカは本当に実力主義の国です。自分で何かしないと、行動しないと、何も始まりません。だからこそ私も今から、今のうちからできることはしておきたいと思いました。自分が今日経験したことが、テレビ番組を作る上でのヒントになることがあるかもしれないのです。留学をしている今の私の一番の収穫は、「勉強で得た知識」よりも「自分の体で得た経験」なのです。

そういう風に考え始めたとき、私の頭の中はとてはっきりしてきました。私にとってアメリカ留学は、自分のやりたいこと、なりたい自分を探す時間です。時間がとても早く過ぎる日本に比べてアメリカは、自分を見つめることのできる最高の場所です。

体験談の続きは weexchange.com へ



小原聡子

“大切な事は「諦めない事」。
どんな小さなチャンスでも、逃さずに頑張れば、夢にたどり着ける。”
サンタモニカ・カレッジで Cosmetology を専攻。
将来は、映画関係の美容の仕事に就きたい。



私がカリフォルニアに来てから1年が経ちました。いくら夢の国アメリカ！と言え、現実には現実。大変なこともちろんあったし、メソメソしたくなった事もありました。

だけど結果的には「来て良かった」この一言に尽きます。私が海外留学を決めたのは生きた英語に触れたかった。日本以外の世界を知りたかった。常に新しい事を吸収し続けたい。そんな思いがあったからです。

日本で高校を卒業して、新たな道を見つけようと色々な事に挑戦しましたが何か物足りない。何だろう。モヤモヤした日々が続いたそんなある日、特殊メイクの専門学校に通い始めました。楽しい!!!でも・・・まだもの足りない。まだもう一歩いけるんじゃないかな。そんな思いがありました。

そんな時、ふっと「外国に行こう」そう思いつきました。今まで家族と離れて住んだことないし、大好きな大阪を離れるのも寂しい。でも、海外へ行けばメイクの勉強をしながら生きた英語にも触れられる。知らない世界へ行くことは自分のプラスにもなるかもしれない。こんなチャンスはやるしかない！と、勇気をだして留学について調べだしました。海外へは1度行ったきりで、ビザの知識はおろか、パスポートも期限切れ。そんなスタートでした。

私は足慣らしのためにまず、4ヶ月間語学学校に通いました。場所はオレンジカウンティのアーバインという閑静な場所で、ゆったりとした空気の流れるとても安全な街でした。今でも大好きな場所で私の第二の故郷。

その後、サンタモニカのカレッジに入学しました。サンタモニカはお洒落なお店も多く、観光客も沢山訪れる賑やかな街です。学校では Cosmetology を専攻していて、ヘア・メイク・ネイルの勉強を主にしています。

カリフォルニアのいい所のひとつ、それは様々な人種の人が沢山の国から集まっている事です。ヘアやメイクにしても単一民族の日本に比べ、初めて触れる髪質・肌質で面白いことの連続。勉強内容も時に美的感覚が違ったりするので、新しい発見になり、自分のプラスになっています。

難しい授業にはついていくのが大変だったりします。でも、大切な事は「諦めない事」だと思えます。

体験談の続きは weexchange.com へ

コミカレ



大西綾奈

フィギュアスケートを10年やり、これからは指導者としての道を歩む。
選手にケガをさせないために、ピラティスをトレーニングとして組み込む。

“留学は沢山の出会い、感動、刺激があり、私の人生の宝物です！”



IGEの今回のピラティスインストラクター資格取得留学を決めたのは、申し込みの期限ギリギリでした。

渡米自体が初めての事でとても不安でした。しかし、IGEスタッフの方の親切な対応で不安な気持ちも和らぎ、安心して留学をすることができました。

<写真左>ピラティス・インストラクターのドリート
(ラスベガスにて)

私はフィギュアスケートを10年間してきました。選手時代はケガが絶えませんでした。選手を引退し今度は教える側、フィギュアスケートインストラクターになろうと思いました。生徒たちに、自分のように怪我で辛い思いをしてほしくない。そこでピラティスをトレーニングに組み込みたいと思い、ピラティスインストラクターの資格を取ろうと決意しました。

私の場合は1ヶ月弱、オレンジカウンティで語学学校に通い、ホームステイをしました。その後ラスベガスのUNLVで3週間の資格講座を受けた後、約一か月インターンシップの為にUNLVの寮で過ごしました。オレンジカウンティは、高級住宅街というだけあってとても綺麗で治安もよく、過ごしやすいです。また語学学校とホームステイを体験することで、アメリカの生活にも慣れることができました。

資格講座は基本的に昼過ぎには終わるので、午後はインターンシップに行ったり、自習をしたりしていました。ピラティスインストラクターの資格講座を教えて下さるDollyさんは、とても愛情の深い方で、ピラティスだけではなく、色々な大切なことを教えて頂きました。

ピラティス自体は日本でもあまり経験がありませんでしたが、勉強していく中で体に対する興味も湧き、3週間の講習でしたがとても充実していました。また英語に自信ができなくても日本人のスタッフの方が通訳をして下さるので、安心して授業を受けることができます。ピラティスの日本人スタッフの方々も本当に親切で気さくで素晴らしい方々ばかりです。

今回、アメリカで過ごした3か月間は沢山の出会い、感動、刺激があり本当に私の人生の宝物です。

体験談の続きは weexchange.com へ



ピラティス



鶴見あずみ

看護師をやりながら、クラシックバレエを20年間続ける。
帰国後、ピラティスをベースに、トレーニングやリハビリにピラティスを用いた自分のスタジオを経営することが目標。
"留学で一番良かったことは、IGEが現地にいるということでした。
留学中に体調を崩しましたが、IGEのお蔭で安心できました。"



看護師として働いていたのですが、"これから先ずっとこの仕事を続けていくのか"と考えたとき、自分の中でしっくりきませんでした。そんな中、元々興味があったピラティスを学びたいという想いが次第に強くなっていき、思いきって仕事を辞め、留学することを決意しました。

ピラティスに興味を持ったのは、幼少より続けていたバレエを通してです。

レッスンを受ける度に、「どの筋肉の力を使って動き出せばいいのか」「どの骨をどの方向へ回転させれば正確なポーズがとれるのか」など、身体の仕組みを自分なりに考えながらやっていました。

解剖学をはじめ、こういった骨格や筋肉などの身体の使い方を学べることに加えて、姿勢改善や綺麗なプロポーション作りにも役立つ知識を得るためにピラティスについて学びたいと思いました。そして、看護師というバックグラウンドがあるためか、リハビリ要素が強いエクササイズという事で、ピラティスについて学びたいと思い、このプログラムへの参加を決めました。

講師ドリーの元で、みっちり3週間学ぶことができました。日本でもワークショップなどは行っているようですが、マット&イクイップメントのプログラムは、アメリカでしか教えていません。

ドリーは、一度に20名以上の生徒が受講していても一人一人をしっかり見て指導してくれます。実技講習ではフォームがちょっとでも間違っていると、"こうした方が良い"といった的確なアドバイスをしてくれます。また、解剖学的になぜその順序でないといけないのかということなどを常に教えてくれました。そうした事を通して、さらにbody movement(身体の動き)についての知識を深められました。

それと、インターンをラスベガスとカリフォルニアのスタジオ両方で行ったことで、2通りの違った指導方法を体験することができたのも良かった点です。ラスベガスのスタジオは、どちらかと言うと、リハビリ目的や歪んだ骨盤の矯正等のメディカル要素が強い指導法。一方、カリフォルニアのスタジオは、美しいプロポーションを保つ目的が強い指導法が行われていました。

留学で一番良かったなあと思う点は、現地にIGEスタッフがいてくれたこと。私は留学の途中、体調を崩して、病院に行かなければいけなかったのですが、その時、IGEスタッフが直ぐに病院に連れて行ってくれたので、安心して滞在することができました。現地サポートの重要性を身にして感じてみました。あの時は本当に心強かったです。

体験談の続きは weexchange.com へ

ピラティス



三浦香織

日本で、パーソナルトレーナー歴6年。しかし、病気がちな日が続くようになった時、マンネリに陥っていた自分に気づく。そこで、ゼロから勉強し直そうと決意し、何の勉強をやるかを研究。その結果、トレーナーという仕事に最も必要だと思ったのがピラティス。英語の勉強も含めて渡米。



新卒から、6年近く都内のトレーニングジムでパーソナル・トレーナーとして働く中で、沢山のお客様をつけて頂き、「なぜ今更アメリカ留学？」と思う方も周囲にはいらしたのではないかなと思います。

私にとって、いろいろな目標を持ったお客様と、日々トレーニングをさせて頂けることは、喜びであり、挑戦でもありました。ただ、その中で、相手ばかりに目を向け、自身の体と向き合うということをどこかで忘れてしまいました

日頃、健康体になって頂くためにはと伝える立場にあるにもかかわらず、体調が優れない日があり、前向きな気持ちで居ることの出来ない自分があることに気がつきました。

このままではいけない、何か変えないといけないと思い、改めて自分の体をもっと知ること、それがお客様のためにも繋がると考え、いろいろなトレーニングメソッドについて、調べ始めました。

そこで以前から知っていたものの、本格的に取り組んだことはなかった「ピラティス」は、解剖学的な面においても充実しており、今まで私が学ばせて頂いた事と繋げることで、より有効なものになるのではと思い、もっと学びたいという気持ちが沸きました。

やるからには中途半端な気持ちではなく、正面から向き合ってみようと、本場アメリカで学ぶことを決意し、もう一度スタートラインに立って、1人のパーソナル・トレーナーとして踏み出せたらと。また、それと同時に不安ももちろんありました。

しかし、その不安はこの渡米後は全くと言っていい程感じることはありませんでした。渡米後は、語学学校で日常会話とピラティス英語を学べた事で、ピラティスの授業にもついて行けたのです！ドリーは、クラスの大半がネイティブの生徒ながら、日本語も交えながら、私たちが理解出来るように授業を進めてくださり、質問をした際も、こちらが伝えたいことを汲みとろうとし、それに熱心に答えてくださったことも、私にとっては非常に有り難いものでした。

こうして今振り返ると、本当に時間の経つのが早く、かなり内容の濃い毎日を過ごしていたなと思います。毎日が、勉強、勉強で、社会人になってからこれほど勉強したことがあったのだろうかといった感じでしたが、それでも苦だと感じなかったのは、沢山の人の出逢いがあったからだと思いました。ドリー、IGE、友人、本当に多くの方々を支えてくださった事で、資格取得以上に大きなものを得た気がします。

体験談の続きは weexchange.com へ

ピラティス



大矢卓明

京都大学4回生。大学を一年間休学して語学留学+体験留学。

留学で得たものは語学力と多文化理解。

“留学する上で一番大事なことは、それを実行する勇気。”

アメリカ留学がきっかけで、留学終了後、ヨーロッパを廻って日本に帰国。
将来は、アメリカの大学院を視野に。



ハロウィーンでみんなコスプレ中

今回、たくさんの方の助けにより、2013年3月から約九か月間のアメリカ留学に行っていました。それはとても刺激的で、ここに書ききれないくらい多くのことを学びました。その中から特筆すべき点として、英語力のアップと多文化の理解の二つが挙げられます。

まず一つ目の英語力のアップについて、これはアメリカ留学を行うにあたって、なくてはならないものです。University of California, IrvineのESLプログラムで学びましたが、主にリスニングとスピーキング、それに続いてライティングが改善されました。最初の三か月はうまく相手の言うことを聞き取ることができず、また理解できてもその返事を繰り出すのに時間がかかってしまい、すごくもどかしい思いをしたのを覚えています。

しかし、五か月目あたりからは自然と英語が耳に入ってくるようになり、英語を使ってコミュニケーションをとることに楽しさを感じてきました。あきらめず英語を日常で使ったことの成果ができたものだと考えています。周りには非常に多くの日本人がいましたが、彼らとの会話は極力英語で行うようにし、また英語話者（アメリカ人）の友達を多く作るように心がけました。そういった意味で、毎週金曜日のパーティー（Thank God, It's Friday! と言って彼らにとって非常に重要な日なのです）が大きな役割を果たしたと言えるでしょう。

そして二つ目が、多文化の理解です。これは留学前には全く予想していませんでした。当初はアメリカ人と英語のみを話して、アメリカの文化に溶け込もうとしました。しかし、私が通った学校には多くの国から留学生が来ており、彼等との交流がとても楽しかったです。韓国、中国、台湾、タイ、ブラジル、チリ、ペルー、スペイン、フランス、イタリア、サウジアラビア、クウェート、と挙げ始めたらきりがありません。



IGEのパーティ

彼らと交流して分かったのが、自分が非常に狭いビジョンを持って世界を見ていたということ、すなわち悪い言葉を使って言いかえると、偏見を多く持っていたということです。

体験談の続きは weexchange.com へ



武内千華

大学一年生の夏休みを利用した、1か月の短期語学留学。

“最初は不安ばかりでしたが、IGEやホームステイ、それに各国から来た語学学校のクラスメイト達と交流するうちに、楽しくなってきました。最後は、もう日本に帰りたくなくなりました。夢は、世界でビジネスをやることです。その日に向けて、英語の勉強は続けます。”



私は、2013年夏の1か月、カリフォルニアに留学しました。行く前はたくさんの不安がありました。学校、ホームステイ先などです。兄も姉も留学していたので、留学に関する注意事項やアドバイスを前々から聞いていたのですが、一人で海外に行き、一人で身の回りの事をやらなくてはいけないという不安は、出発日まで消えませんでした。

アメリカの空港に着いた時もまだ実感がわきませんでした。そして、IGEの方に迎えに来ていただいて、日用品などを買いに連れて行っていただいた時に、まったく店員さんの言っていることが分からず、通訳してもらって、ようやく意味を理解することができました。なんて返答したらいいのか分からず、おどおどしていたのが、初日でした。

当たり前ですが、自分の英語のできなさにがっかりしました。同時に、どうしても英語で流暢に会話をしたいと、今まで以上に思いました。その時に、IGEスタッフから、『英語で日記を書くといいよ』と教えていただきました。その日から毎日、英語で日記をつけはじめました。最終日に、その日記を読み返しみると、色々な思い出と、自分の英語力の少しの上達が目に見えました。

私が1か月お世話になったホームステイ先は、とても良い方たちで、本当にお世話になりました。ご飯も朝、昼、夜しっかりとおいしい料理を作って頂き、たくさんの会話をしていただきました。夕飯のあとは、ワンちゃんの散歩にいたり、その時に近所の方とお話をしたりと、たくさん英語とアメリカの文化に触れることができました。

カリフォルニアでの一か月間は、語学学校に通いました。学校のすぐそばには大きなショッピングセンターがあり、周りもとてもきれいで、環境が整っていました。語学学校には日本人が多く集まってしまってしまうのではないかと、友達はつくれるのか、授業についていけるのか、沢山不安がありました。ですが実際に通ってみると、最初のうちはその不安が消えることはなかったのですが、しばらくすると不安はなくなりました。時期的にも日本人の方が比較的少なかったということもありましたが、色々な国の方々と仲良くなれて、一緒にビーチに行ったりして交流を深めることができました。

授業も当たり前ですがすべて英語で、最初は正直何を言っているか全く分からなかったです。でも1, 2週間たった時から少しずつ聞き取れるようになった気がしました。その時から買い物に行っても、店員さんの言っていることが少し理解できるようにもなりました。

本当のところ、初日に言葉が通じなかった時は、このまま分からずに終わってしまうのではないかと、一か月だけでは意味がないのでは？とか、早く日本に帰りたいたいという気持ちがありました。でも、過ごしているうちにそうした不安もなくなり慣れて最後には帰りたくない！と思っていました。私にとってこの一か月はとても貴重な経験で、大きく成長できました。

体験談の続きは weexchange.com へ

語学



野津志保

日本では中学時代から不登校。心機一転のつもりで、19歳の時、短期語学留学を行う。この時、とても充実していたので翌年も短期語学留学を行った。

“各国から来た留学生の輝いている姿を見て、私もあの様に輝きたいと思った。そして、考えてもいなかった大学留学を実現した。” 現在、オーストラリアの大学に在学中。



“Earth Day”のイベントに参加

日本では不登校。何とかしたいと思いつながら、日本では何もできなかった。心機一転の目的で、2009年、カリフォルニアに短期、語学留学。

最初の留学がとても充実したものであったので、2010年二回目の短期語学留学を行う。

年齢も国も違っても、夢に向かって一生懸命がんばっている多くの留学生と出会う。自分もあの様に輝きたいと、高校卒業後は、アメリカの大学に留学することを決意。

私が留学を決意したのは、将来アメリカで働きたいと思ったことと、そこに住む人の生活を見たり、触れ合ったりしたいと思ったからです。美容関係の学校見学をしながら、一か月、語学学校に通いました。その時は、ほぼ興味と勢いだけで、語学力も全くないのにカリフォルニアに留学しました。

留学先のホストファミリーに温かく迎えられ、次の日から語学学校に通いました。そこで私は様々な人に出会いました。いろいろな国の人がいて、みんな自分より年上で、英語も苦手なので緊張でがちがちでしたが、いろいろな人がフレンドリーに話しかけてくれたので、すぐになじむことができました。同じ留学生でも目的はそれぞれ違います。でも、皆一生懸命で、自分の夢に向かって努力する人たちばかりで、とても輝いてみえました。

美容関係の学校見学では、専門学校とコミュニティカレッジを見学しましたが、日本と違っていろいろな年齢の人がいました。誰も年齢の違いなどはあまり気にしていないようだったので、とてもいいなと思いました。広い学校の敷地をスケートボードや自転車で移動している姿が、とても印象的でした。

まだ今は、美容関係の仕事につくかどうか、はっきりとは決めていませんが、留学して、もっと英語ができるようになって、たくさんコミュニケーションがとれるようになりたいと、勉強を続けています。高校を卒業したらアメリカの学校に進学をしたいと思っています。その時には、今回の留学で出会った人たちのように、自分も目標を見つけてそれに向かっていけたらいいなと思います。

次から次に問題は起きますが、決して留学をあきらめませんでした。自分を支えてくれる家族やIGE、周りの人々への感謝の思いがあるからです。また、この留学では、英語上達以外にも家族からの精神的自立という大きな目標があります。生まれてから今まで何をすることもお母さんとずっと一緒。お母さん以外の他の人にすべての介護を頼むのも初めて、離れて暮らすのも初めて、それをアメリカで実現したのです。

語学



川端梓沙

生まれつきの脳性マヒで重度の障がい。首から上しか動かせないが、語学を習得して障がい者の通訳になろうと思い、留学を決意。

“最初の3か月の留学がとても充実していたので、二回目は6か月の留学を実施。毎日、問題だらけだったが、IGEや語学学校の先生のお蔭で、乗り切れた。これで、自立の自信もついたので、目標に向かって頑張るぞ！”



IGEスタッフと大学見学

今年成人式を迎えた20才。生まれつき重度の脳性まひで、自力で動かせるのは、左肘から先と、首から上だけ。両下肢は使えないので、車椅子で移動。

小中学校は、お母さんの付き添いで公立学校に通学。高校は受け入れ先がなく、在宅で通信教育で学んでいました。将来を考えた時に、自分が動かせるのは、首から上。

つまり、話すことはできるのだから語学を学んで将来の仕事につなげられないだろうか？

そして、通訳になり障害者の国際交流に貢献、両国の架け橋になろうと思い、語学留学に旅立ちました。

留学を決意した時、留学が実現すると信じていたのは、本人とお母さんだけ。どの留学業者にも断られ、留学をあきらめかけていた頃に、IGEに出会いました。IGEには、日本で養護学校勤務の経験をもったスタッフもおり、実現させることができました。

アメリカというところはいろんな意味で本当におもしろいところだと思う。失敗をしてもまた立ち上げられるタフさがあれば必ずいつかは報われる。自分を信じて進んでいける人、自分の恥をさらけ出してでも前に進もうとする人を周りは応援してくれる。そんな寛容さと開拓精神が自分にとってアメリカの魅力だ。

そして、昨年夏、3ヶ月間の語学留学を終了。そして帰国するおりに、次は半年間の留学を決意していました。その決意を実行に移し、今年2月中旬に再渡米。前回と同じ語学学校に通っています。先生やクラスメートも親切で、楽しんで通学しています。ホストマザーは、「彼女は、不自由さがあっても愚痴をいわない。我慢強いし、優しい。」と。エミリーというアメリカン・ネームもつけてもらいました。

将来、通訳となり、障害者のための架け橋になれる日が来るのが待ち遠しいです。二度の留学で、障害を個性として受けとめることができました。又、自分らしい生き方をしていく自信もつきました。自分一人の勇気が、今後数え切れない人に希望を与え、多くの人の夢の実現のきっかけとなるでしょう。

体験談の続きは weexchange.com へ



門田元

早稲田大学・大学院スポーツ科学専攻。
高校野球のコーチ、監督をめざし、野球の名門Chapman大学・野球部に
1か月半の留学。
“アメリカの監督と選手の距離の近さ、野球を楽しむ姿勢は、
日本ではあまり無いところ。この経験を生かして、高校野球のコーチ、
監督になりたいと思う。
このようなプログラムを作って頂いたIGEには心から感謝しています。”



今回のChapman Universityにおける
野球インターンシップでは1ヶ月半と
いう非常に短い期間でしたが、本当に
様々なことを楽しみながら経験出来た
と思います。

いきなり練習や試合に参加させていた
だいたということもあり、チームメ
イトとの距離もどのように保てばいいか
などもわからず、日々チームの中での
自分の立ち位置を模索しながら、ひた
すら裏方の仕事に徹しようとしてばか
りいました。

しかし、他のコーチ、また監督のご配慮もあって自分のコーチングの勉強に集中できるよ
うな環境を徐々に作っていただき、最終的にはチーム全体を見渡せるような、自由に動き回れ
るポジションに自分を配置してくださいました。これによってビデオ撮影やスタンド観戦し
ている方々から見たチームの内情なども探ることができたため、より多角的に物事を見る機
会に恵まれたと思います。

そこで自分が以前から気になっていた日本とアメリカの野球の違いを意識しながら見てみる
と、監督と選手の距離の近さがチームの一体感を生み出しているということが非常によく伝
わってきたのが印象に残っています。日本では、どうしても監督と選手という距離感があり、
話し合いなども選手側が一步譲っているケースが多く見受けられましたが、ここではそ
のようなことはあまりなく、選手が自分の意見をはっきりと監督に伝えることが出来る環境
が整っていました。

選手一人一人の意見を受け入れていてはチーム全体を統一することは難しいですが、選手が
今何を考え、どのようなチームにしていきたいかなどを知らないことには、チームの方針も
間違った方向に進みかねません。そういった意味では、監督がチームの方針として大枠を作
り、選手から多少わがままと捉えざるを得ない意見も受け入れることで、そのチームの味を
出していくことも大事であると感じました。

このような機会を提供して下さった
IGEの方々に深くお礼を申し上げます。
そして拙い自分の英語を常に理解しよ
うとしてくれたチームメイトやスタッ
フの方々にも感謝の気持ちでいっぱい
です。短い間でしたが、書ききれない
ほどのかけがえのない貴重な経験をさ
せていただき、本当にありがとうございました



体験談の続きは weexchange.com へ

インターン



池田裕子

日本の大学を卒業して就職。しかし、映画の配給の仕事の夢が
あきらめられず、夢のハリウッドの映画配給会社でインターン。
“昼間はインターン、夜は語学学校で英語の修得の毎日。大変ですが、
とても刺激があり、充実した毎日です。早く配給会社に本採用されるよう
頑張りたいです。
こんな素晴らしい機会を作って頂いたIGEに心から感謝しています。”



アメリカに来て早2か月が経とうとしていますが、言葉の不自由も乗り越えることができ…と云えばいいのですが、英語と格闘の毎日を送っています。

現在は週四日、夕方まで映画配給会社でインターンとして働き、週五日、夜間に語学学校に通っています。

会社ではまだ雑務やリサーチの仕事が多いですが、常に英語での会話となるため、意思疎通を図ることの難しさを感じます。一方、直にアメリカ社会に触れ、また貴重な体験も出来、充実感も味わえています。先日LAから2時間ほど車で行った所で開催されたFilm Festivalに参加してきました。そこでは各国の映画を鑑賞し、また目の前でハリウッドスターを見ることもでき、大変興奮したのを覚えています。

語学学校ではビジネスクラスを受けています。月に一度プレゼンテーションの時間があり、人前で話すのが苦手な私にとっては拷問の時間ではありますが(笑)、クラスの皆で和気あいあいやっています。一番のお気に入りのPaulという先生は、個性が強く面白いので、毎回授業中は笑っぱなしです。たまに話が逸れて授業にならないこともあります(笑)

ここに来て強く感じたのは、積極的になった者勝ちだということ。周りには私より何百倍も話せる子達がおり、自分と比較してしまったり、また思うように話せず自分に憤りを感じてしまうことも多々あります。しかし、だからと言って殻に閉じこもっては、折角の学ぶチャンスが勿体無いので、話せば話した分だけ成長する、最悪、片言でもいい、文法なんて合ってなくてもいい、と開き直り毎日を過ごしています。

また毎日色々な人と会う中で、自分を見つめなおすようになりました。国が違えば価値観も違うので、多様な意見を聞くことができ、そして学生としてここに来ている子達は、自分の将来の目標を明確に持っている子がとても多く、大変良い刺激になっています。

一日一日とても濃い時間を過ごせているので、今後どのような体験ができるか楽しみです。今は運転免許取得に向けて勉強中でもあるので、車購入後は行動範囲を広げ、たくさんの場所へ行き、多くのものを見て感じたいと思っています。最後になりましたが、サポートして頂いているIGEの方々へ心から感謝致します。

体験談の続きは weexchange.com へ

インターン



藁谷美穂

東京女子体育大学にてアスレティック・リハビリテーション論を学ぶ。
卒業後、千葉県の大手病院で健康運動指導士、
リハビリ助手として6年間勤務。
アメリカの介護施設、健康運動について学ぶため、アメリカの介護施設で
インターンを実施。“日本と海外（アメリカ）の介護に対する考え方や
意識の違いを大きく感じました。この経験の日本を病院で
生かしたいと思います。”



最初に驚いたのが、施設
に住んでいるResident
（入居者：日本では入所
者と呼んでいることもあ
る）の方々がとても元氣
で一人一人が独立してい
ることです。

私がお世話になったKeiro
Intermediate Care
Facility（敬老中間看護施
設）は入居者が90名で、
食事、衣類の着脱、排泄
などで、ほとんど介助が
いらぬか、或いは、わ
ずかな介助で、基本的な
自立ができる方が対象の
施設です。

アルツハイマーの方も多くいる中、ほとんどの方が自分自身の生活のリズムを持っていて、それに伴って活動しています。食事やExerciseの時間は皆さん共通ですが、その他の時間は散歩や外で日光浴をしながら新聞を読んだり、お話をしたり、各々に過ごしています。

次にアクティビティーがとても充実していることです。施設にはアクティビティー専門のスタッフがおり、その方々を中心に多数のボランティアの方が来られています。中には92歳の女性の方が車を運転してボランティアとして来られていました。ボランティアの方々とアクティビティー専門のスタッフが協力し合い、多数のアクティビティーを行っている為、ボランティアということが根付いているんだと感じました。日本では、まだボランティアに対する意識が低いのが現状で、今まで私が見た中では、ボランティアの方を施設でお見かけする回数はあまり多くなかったです。これらのことを日本でもどんどん取り入れていけるようにしていかなければならないと強く実感しました。

また、50人から60人の方々を対象にExerciseをするという体験もできました。とても緊張していると思うようにできなかったですが、逆にResidentの方から元氣とパワーをもらい、30分という短い時間ですが、最後まで楽しく行うことができました。まだまだ多くの貴重な体験をすることができ、本当に今回ボランティアに参加してよかったと思っています。これからも2回、3回とボランティアに参加して多くを吸収していきたいです。今回、協力していただいたIGEの平田社長をはじめスタッフの方々にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

体験談の続きは weexchange.com へ

インターン